



久留米市美術館特別展

ポーの一族展

萩尾望都デビュー50周年を記念し開催

4月17日(土)から久留米市美術館で「萩尾望都 ポーの一族展」が開催されます。萩尾望都は、大牟田市出身で、1969年に漫画家デビュー。以来、数々の名作を生み

だし、日本の漫画界をリードしてきました。代表作の「ポーの一族」は吸血鬼となり、永遠に少年の姿のまま生きていく運命を背負った主人公を巡る物語です。



「ポーの一族」の主人公エドガーとアラン ©萩尾望都/小学館

今も、世代を超えて読み継がれています。

本展は4章構成で、「ポーの一族」の世界をさまざま切り口で展開。執筆の舞台裏など、ここでは見られないものが数多くあります。第1章は「ポーの一族」の原画などを第1作から紹介。第2章は2018年に宝塚歌劇花組によって上演されたステージを再現。実際に使用した衣装や小道具も展示します。第3章はもう一つの代表作「トーマの心臓」を前後の作品と共に振り返ります。第4章は50年間の軌跡や「ポーの一族」新シリーズを紹介します。

◆会期 4月17日(土)から6月13日(日)までの10時～17時。入館は16時30分まで。月曜は休館。5月3日(祝)は開館 ◆入館料 一般800円、65歳以上600円、大学生500円、高校生以下無料。前売り券500円。チケットぴあ、ローソンチケットなどで販売
◎久留米市美術館 (☎0942・391131、FAX0942・393134)



宝塚歌劇花組公演『ポーの一族』(2018) ©宝塚歌劇団



撮影/横田紋子

■萩尾望都 (1949～)
大牟田市生まれ。1969年「ルルとミミ」で漫画家デビュー。1976年小学館漫画賞をはじめ受賞多数。2019年度文化功労者の顕彰も受けました。母の実家が久留米にあり、石橋文化センターにも家族で来園していたそう



久留米市ふるさと市民賞

まちづくりに貢献した23人

3月22日に本庁舎で「ふるさと市民賞」の表彰式が行われ、ふるさと久留米のまちづくりに貢献した23人が受賞しました。表彰された皆さんは次の通りです。(敬称略)

【社会福祉の充実など】 ■有馬良信(三潴町) ■生島渡(大善寺町) ■石橋雅憲(野中町) ■井村孝子(六ツ門町) ■内野壽雄(青峰一丁目) ■緒方正文(諏訪野町) ■緒方充子(東合川町) ■京谷清光(安武町) ■小西廣満(荒木町) ■佐藤九州男(京町) ■田中トミコ(国分町) ■轟義美(西町) ■中島幸男(朝妻町) ■西田伊津子(津福本町) ■牟田正博(東櫛原町)

【教育・文化・スポーツの振興】 ■秋吉航一(小郡市) ■江藤洋子(野中町) ■野口寿穂(荒木町)

【消防団活動】 ■白井精二(三潴町) ■國武朱美(田主丸町) ■古賀純一郎(城島町) ■執行武司(城島町) ■島袋マユミ(田主丸町)

◎総務課 (☎0942・3009052、FAX0942・3009706)



絆づくり補助金の募集開始

幅広い市民活動を応援

久留米市は、「市民活動・絆づくり推進事業費補助金」の受け付けを始めます。複雑多様化する地域課題に対応するため、これまでよりも幅広い分野の市民活動を対象にしています。皆さんとの協働を進め、さらに相乗効果ができるように、募集内容も見直しています。

【かなえるニース部門】団体の自由な発想を生かした活動を支援。年限は5カ年。上限額は30万円

【協働パートナー部門】テーマに応じた活動を支援。年限は5カ年。上限額は100万円

【地域まちづくり活動活性化部門】校区や自治会などが、地域の課題解決のため、自主的に行う活動を支援。上限額は校区100万円。その他は30万円

◆申込方法 協働推進課に事前相談の上、提案書類を提出 ◆締め切



補助金を活用して地域で開催された講習会。模型を使って大雨に備えた床下浸水の対処法などを学びました

り 4月から11月の毎月10日(土)日曜、祝日の場合は直前開庁日) 手続き方法など詳しくは、市ホームページや問い合わせ先に確認してください。
◎協働推進課 (☎0942・3009064、FAX0942・3009706)